

次号予告

特集	集 頭部外傷と PT・OT	
	頭部外傷の分類と診断・治療.....杏林大脳外科	竹 内 一 夫
	頭部外傷の救急処置と後遺症対策.....岩手医大脳外	西 村 謙 一
	頭部外傷のリハビリテーション.....九州厚生年金病院	三好 正堂・他
	頭部外傷の理学療法.....中国労災病院	板場 英行・他
	頭部外傷の作業療法の実際.....東京労災病院	影 山 滋 久
と び ら	義足とのつきあい.....東京医歯大	細 田 多 穂
講 座	運動学シリーズIV 股関節の運動学(1).....自治医大	谷 岡 淳
精神科 OT	作業に安住.....高茶屋病院	大 橋 博
の 実 際		
資 料	第 11 回 PT・OT 国家試験 (1976 年度) 問題・模範回答.....	
メディカルプログレス		
	血液凝固・線溶系について.....日大生理	石 川 友 衛
	自 閉 症(6).....神奈川小児療育相談センター	佐々木 正 美
Q and A	「慢性関節リウマチの理学療法について」...A: 岡崎 健・Q: 松沢 博	
本 の 紹 介	日本医療技術者団体連絡協議会編「沈黙の医療戦士——医療技術者の実態と役割」.....国立身障センター	鈴 木 正 彦
	J. J. Walsh 著「Understanding Paraplegia」.....九州リハ大	嶋 田 智 彦

編集後記

ICU が今月号で特集としてとりあげられた事は、理学療法、作業療法の歴史の中でも画期的な事である。当然の事であるが、理学療法、作業療法は急性期の患者も対象にすべきであり、ICU、CCU は PT、OT にとって勉強出来る又とない分野であり、効果が比較的短期間で確認出来るという点でも大きな可能性をもっている。

冠疾患の罹病率が低いと言われている我国でも将来は欧米に近い率になるかもしれないし、循環器疾患、ICU、CCU 専門の PT・OT が生まれる時代が割合近いかもしれない。下村氏の“CCU の機構と機能について”芳賀氏の“ICU における呼吸管理”，石橋氏による“心筋硬塞の CCU にお

ける理学療法”，横浜市大グループの“ICU における慢性閉塞性肺疾患の理学療法”，女子医大グループの“脳外科 ICU における理学療法”など力作揃いであり、参考となる面が多い。又講座の統計学、手指の運動学も力作である。座談会の養護学校教師と PT・OT は教育サイドと医療サイドの考え方、及び関連上の問題をついている。理学療法、作業療法の領域は実に広いものであり、社会的な評価を今以上に得るためには、一応広範囲の勉強の上に各自が得意とする、又は専門とする分野をより高い次元で導いて行く努力が必要な時期に来ているような感じも受ける。ICU、CCU がそのよき例である。(荻島秀男)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長
五 味 重 春
府中リハビリ学院長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 馨
神奈川リハセンター
鈴 木 明 子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
田 村 美枝子
清瀬リハビリ学院
寺 山 久美子
都心障センター
松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守
松 本 妙 子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
横 山 巖
和 才 嘉 昭
(担当 細田・松橋)